

第43回大会 2010. 8. 8～8. 9

会場；国立オリンピック記念青少年総合センター

8月9日（月曜日）

開会式

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション

【10：10～11：50】

1-A 「聴覚障害児の評価と指導」

東京学芸大学 濱田 豊彦

「聞こえない子は、何に困っているのか？」この講義は、この問いに答えることを目的としています。オージオグラムの見方などの基礎知識に加え、聴覚障害児の言語、社会性などに関する発達上の課題について解説し、支援を行う上での基本的なあり方について述べます。見えにくい困難に対して、受講者のみなさんが敏感で彼らの味方になれるような講義をしたいと思います。

1-B 「言語発達遅滞の評価と指導」

東京学芸大学 藤野 博

言語発達遅滞には、知的障害や自閉症スペクトラムを背景とする場合や、音声言語のみに顕著な問題を示す特異的言語発達障害(SLI)などいくつかのタイプがあります。本講義では「聞く・話す」ことに困難を抱えるタイプのLDの基本障害として近年注目されている特異的言語発達障害と、自閉症スペクトラムにおける会話やコミュニケーションの問題に焦点を当て、評価と指導のポイントを概説します。

1-C 「子どもを見る目・育てる心」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

言語臨床に携わるようになってから半世紀を過ぎました。この間、医学部付属病院での音声外来、教育学部での臨床授業や教育相談、障害者施設でのカウンセリングなどで、多岐にわたる事例から多くのことを学ばせていただきました。これらの体験とその間に得られた学問的知識をもとに、言語障害児教育をどのようにすすめたらよいかについて私自身の考えを述べてみることにします。

【13：10～14：50】

2-A 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

この講義では、吃音の基礎知識と最新の知見をわかりやすく紹介し、これまでの研究成果を踏まえた指導、支援のあり方について述べます。現在、我が国では教育実践や臨床の場において、話し方に直接働きかける指導法の開発が求められています。そこで今回は、子どもたちの話し方指導につながる従来の知見と最新の知見を紹介し、指導の際に用いる単語の備えるべき条件など、具体的なことについても考えてみたいと思います。

2-B 【前半】 「小学校の聴覚障害児教育の実際」

船橋市立船橋小学校 山尾 真希

通常の学級で学んでいる聞こえにくい子どもたちに、船橋小学校の難聴学級ではどのような支援を行っているのかについてご紹介いたします。在籍児童に対する情報保障の実際、通級児童に対する支援の方法、個別指導・グループ指導の内容などについて具体的にお話しさせていただきます。

2-B 【後半】 「中学校の聴覚障害児教育の実際」

横浜市立共進中学校 松森 久美子

～通常の学級で育つ きこえない・きこえにくい生徒への支援

通常の中学校に通う、聞こえに障害をもつ子どもたちに、どのような課題があり、どのような支援を行っているかについて紹介いたします。思春期の中学生として、また聴力型によって、配慮が必要なポイント、定期試験の受け方や、在籍校との連携等です。また、時間が許せば、ノートテイクの際の課題、受験の際の配慮や進路と障害認識、補聴器の調整などについてお話しさせていただきます。

2-C 「言語発達遅滞の指導の実際」

東京学芸大学 大伴 潔

本講座では、「語いを育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として「LCスケール」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

【15：10～16：50】

3-A 「構音障害児の評価と指導」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

例えば、「さ」が「た」になってしまうのは、どうしてでしょうか。そのような発音をしてしまう子どもはどのような困り感を抱えているのでしょうか。指導者は、その困り感にどのように向き合い、支援の手立てを考えていけばいいのでしょうか。このような観点で、ことばの教室での基本的な、かつ具体的な構音指導を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

3-B 「聴覚障害児の指導の実際」

横浜国立大学 舞園 恭子

難聴のある児童生徒に「考えながら聞き、話す」聴覚フィードバックの力を育てるための聴覚活用指導について述べたいと考えます。聴覚フィードバックの力を育てることで、相手の話を予測し、考えながら聞く力と共に、自分の言葉も聞きながら話す「フィードバックの環」が育ってきます。その結果、自分の言葉への自己評価の態度が育ち、言語発達も促進されること等、事例を紹介しながら述べます。

3-C 「吃音指導の実際」

横浜市立八景小学校 綾部 泰雄

ことばの教室での指導は子どもの評価に始まります。吃音児の評価は、吃音の話し方の様子と、子どもの生活全体に配慮する必要があります。指導は「特別の教育課程」によって行われますが、吃音の状態に応じて、吃音の改善・克服を目的とする「自立活動」を内容とします。初めて吃音児を担当する方をも念頭に置きながら、過去に担当した事例を挙げて、吃音児の理解と支援の実際を紹介します。

8月10日（火曜日）

【9：20～11：00】

4-A 「事例検討の意義と進め方」

目白大学 羽田 紘一

言語障害児の指導には、教育的診断とそれに基づく指導計画が必要です。指導をより有効にするためには、その診断・指導の過程が児童・生徒の実態に適したものであるか否か、検証しながら進める必要があります。その検証方法の一つとして“事例検討（事例研究）”は、言語障害児指導に不可欠です。なぜ有効か、どのような方法があるかを解説するとともに、実際的な方法について演習します。

4-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅰ～歪み音の理解と聞き取り」

昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので慣れていないと聞き取りが難しく、現場で悩まれる先生方が多いのが現状です。「新版構音検査」を使いながら、誤り音のまとめについて解説します。実際のお子さんの動画を使いながら、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法などもお話します。はじめての先生方も是非ご参加ください。

4-C 「障がい幼児の指導について」

國學院大学幼児教育専門学校 野本 茂夫

障がいのある幼児の支援について、生活や遊びを通して発達を促す幼児期にふさわしい経験の在り方を考えます。コミュニケーションに障がいのある子どもを対象に、幼児教育の基本を踏まえて、生活や遊びを通じた支援の重要性を事例を基に示します。幼児の自ら育つ力が生かされる保護者とのかかわり、先生とのかかわり、友達とのかかわり、環境とのかかわりをビデオ映像を交え解説します。

【11：20～13：00】

5-A 「事例検討会～保護者支援を中心に」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

言語障害児教育を効果的にすすめるためには、子どもに対する直接的な治療・指導だけでなく、保護者に対する支援も重要な役割を占めています。現場からの事例を提供していただき、特に家庭においてどのような配慮が必要になるかについて会場の皆様と討議したいと考えています。事前に事務局宛に事例をお送りいただいても結構ですし、当日会場で発表していただくことも歓迎します。

5-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅱ～舌のトレーニング法の紹介」

昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、細長く緊張します。そこで音の指導に先だって、舌を平らに保つこと、舌の横の筋肉や舌先のコントロール性を高める指導を行います。お口の体操をさらに進めた舌のトレーニング法についてお話したいと思います。実際に体験していただきたいので、鏡をご用意ください。また「い」「き」「し」の指導法も解説したいと思います。

5-C 「検査法の活用について」

國學院大学幼児教育専門学校 石川 清明

コミュニケーションに障がいのある子どもの教育的診断や指導に広く使用されている「標準検査」の中から知能検査、純音聴力検査ほか数種の発達質問紙をとりあげます。検査結果の意義や結果が何を示しているのか、検査結果はなぜ変化するのか、検査を通して何が読み取れるのかなど日々の指導場面で検査法を活用するための基礎的事項について、事例を紹介しながら理解を深めます。

記念講演 【14：10～16：10】

講師 高橋 依子（甲子園大学）

演題 「言語障害児の教育に活かす臨床描画」

言語障害児の教育では、ことばの教育を効果的に行うためにも子どもたちの心に寄り添っていくことが大切です。描画によって子どもたちの心を理解していく描画テストと心の問題を解決するための描画療法について概観します。ことばの発達のためには、認知、情緒、社会性などの総合的な発達が重要であり、子どもたちの心に働きかけ心の成長を促すための描画の活用方法についてお話したいと思います。

講師略歴

京都大学大学院文学研究科博士課程心理学専攻修了
嵯峨美術短期大学専任講師・助教授・教授を経て
甲子園大学人文学部心理学科臨床心理学コース教授・大学院教授兼任

日本描画テスト・描画療法学会会長
文学博士
臨床心理士

○ 閉会式 次回大会のお知らせ 16：10